

その他（自由選択科目）：海外教育実践体験実習

担当教員：隅田学，河野極，篤原進，菅谷成子（法文学部），竹下浩子，大橋淳史，熊谷隆至，池野修，藤田昌子，荻田知則，河村泰之，富田英司，ボグダン・デイビッド，深田昭三，向平和，吉村直道，高橋志野（国際連携推進機構），ルース・バージン（国際連携推進機構）

フィリピン海外教育実践体験実習（ステップコース）

理科教育講座・隅田学

授業の目的

一昨年度より、フィリピン大学（学術交流協定締結校）と連携協力しながら、これまで行ってきた、英語を教授言語として授業を計画・準備し、現地渡航して授業実践を行い、教育分野における国際的な感覚を培うことを目的とした海外教育実習プログラムを、授業観察中心のステップコースと授業実践中心のアドバンスコースに分けて拡充、系統化している。加えて、前者のステップコースについては附属高校生との合同研修部分を含めている。今回はその部分を含めた高大連携の国際化について報告する。

受講者数と行程

本授業は、フィリピンでの教育実践体験への参加を受講の条件としている。受講者数（渡航者数）は10名であった。2018年11月2日～11日の10日間、現地渡航し、各種学校訪問と授業観察、そして文化視察を行った。附属高校生については、11月4日～8日まで7名が研修を行った。その行程は以下の通りであった。

- 11月2日 移動日
- 3日 地域のラーニングセンター参加
- 4日 大学内散策
- 5日 フィリピン大学附属学校での高校生によるプレゼンテーション参加、キャンパスツアー、ウェルカムパーティ
- 6日 フィリピン大学附属学校での授業観察
- 7日 文化視察（マニラ大聖堂，国立博物館，イントラムロスほか）
- 8日 文化視察（ケソン記念サークル）
フィリピン大学教育学部授業参加，プレゼン発表，サヨナラパーティ
- 9日 地域の公立学校での授業観察
- 10日 地域の文化伝承に関する資料収集
- 11日 移動日

本授業を通じた成果と参加高校生と大学生との反応の比較

自分が身につけたさまざまな能力についての評定を、渡航直前、渡航後で求め、高校生と大学生で共通に用いたものを以下に整理した。評定については、1（全くできない）～5（十分にできる）の5段階評定で回答を求めた。

・英語で説明をしたり会話をしたりすることができる

	渡航直前	渡航直後	上昇度
大学生	2.10	2.50	+0.40
高校生	3.29	3.43	+0.14

・日本の文化や習慣をフィリピンの子どもたちに紹介できる

	渡航直前	渡航直後	上昇度
大学生	2.80	3.10	+0.30
高校生	3.29	3.57	+0.28

・フィリピンの文化や習慣を日本の子どもたちに説明できる

	渡航直前	渡航直後	上昇度
大学生	2.50	3.40	+0.90
高校生	3.00	3.86	+0.86

・日本を世界的な視野に位置づけて考えることができる

	渡航直前	渡航直後	上昇度
大学生	2.90	3.10	+0.20
高校生	3.14	3.71	+0.57

・世界の様々な人と交流することができる

	渡航直前	渡航直後	上昇度
大学生	2.90	3.30	+0.40
高校生	3.14	3.57	+0.43

・世界の様々な国で自分を役立てることができる

	渡航直前	渡航直後	上昇度
大学生	2.60	3.10	+0.50
高校生	3.00	3.29	+0.29